

神経内科: ALS

40-067 筋萎縮性側索硬化症で誤っているのはどれか。

1. 40~50 歳代に好発する。
2. 男性に多い。
3. 進行性である。
4. 外眼筋麻痺がみられる。→ は保たれる。
5. 球症状がみられる。

えん下、不構音障害

42-084 筋萎縮性側索硬化症で適切なのはどれか。

1. 筋の圧痛 ~~があるのは、多発性筋炎である。~~
2. 筋線維束攣縮の存在
3. 近位筋優位の筋萎縮 ~~遠位~~
4. 筋電図の低振幅電位 ~~高~~ 神経原性の変化であり、
高振幅となる。
5. 筋生検上、顕著な壊死線維の存在

→ 筋炎、筋ジストロフィーの症状。 → 筋炎や筋ジストロフィーは筋原性の変化で低振幅となる。

44-076 筋萎縮性側索硬化症でみられないのはどれか。

1. 舌の線維束攣縮
2. 流涎
3. 肺活量低下
4. 深部感覚障害
5. 歩行障害

50-P-093 筋萎縮性側索硬化症にみられるのはどれか。

1. 筋固縮 → ハーキンソン病でおこる。
2. 痛覚脱失 は、おこらない。
3. 測定異常 → 小脳失調でおこる。
4. 線維束攣縮
5. 筋の仮性肥大 → 筋ジストロフィーでおこる。

↑
デュシェンヌ型

ALS (筋萎縮性側索硬化症)

- ・ 50~60才、男性に多い。
- ・ 前角細胞と側索が障害されるため上位と下位の運動ニューロン障害
- ・ 上肢の遠位筋から障害される上肢型が多いため、呼吸、えん下機能から障害される球麻痺型もある。

・ 症状

筋力低下、舌の萎縮、筋線維束性攣縮

・ 陰性(おこらない)症状

感覚障害

自律神経障害(膀胱直腸障害)

褥瘡

眼球運動は末期まで保たれる。

知能障害

・ 4~5年で寝たきりになる